

平成28年度

施政方針

平成28年2月

飯山市

平成28年度 施政方針

平成28年3月定例市議会の開会に当たり、平成28年度に臨む、施政の基本方針を申し上げ、市民の皆様、並びに議員各位のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

北陸新幹線飯山駅の開業から1年が経過します。開業により、首都圏・関西圏などへの時間的距離が飛躍的に短縮され、自然豊かな飯山市の基礎的条件は大きく改善をされ、新しい時代の幕開けとなりました。特にウィンターシーズンには、国内外から多勢の新幹線利用者が訪れ、その効果が現れてきております。

全国的に人口減少・高齢化が進展する中で、国の「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、昨年10月に飯山市の自律的で持続的な社会の創生を目指し、平成27年度から平成31年度までを計画期間とした飯山市総合戦略を策定したところです。

この総合戦略は、産業経済団体・女性・高校生・若者会議等の代表者により議論をいただき、飯山市人口ビジョンを踏まえ策定したものであります。新幹線時代の飯山市づくりを戦略の基本に位置付け、「地域経済の活性化・雇用創出」、「若者定住・移住定住推進」、「子育て支援・次世代育成」、「いつまでも安心して暮らせる地域づくり」の4つを戦略の柱といたしました。

平成 28 年度から、この総合戦略及び飯山市第 5 次総合計画前期基本計画に基づき具体的な取り組みを進めてまいります。

ここで、市政を取り巻く国や県の状況等をご説明申し上げ、ご理解を賜りたいと存じます。

平成 28 年度の国の経済見通しでは、「希望を生み出す強い経済」、「夢をつむぐ子育て支援」、「安心につながる社会保障」の実現に向けた、「一億総活躍社会の実現に向けて緊急に実施すべき対策」などの推進等により、雇用・所得環境が引き続き改善し、経済の好循環がさらに進展するとともに、交易条件がゆるやかに改善する中で、堅調な民需に支えられた景気回復が見込まれております。また、物価については、デフレ脱却に向け更に前進が見込まれるとして、平成 28 年度の国内総生産の実質成長率は 1.7%程度、名目成長率は 3.1%程度と見込まれております。

国の新年度予算案は、96 兆 7,218 億円、前年度当初と比べ 3,799 億円、0.4% 増の予算規模となったところです。歳出では、持続可能な社会保障制度の確立に向けて社会保障関係費を 4,412 億円増額し、一方、歳入では国税収入等の増を 3 兆 790 億円見込み、新規国債発行額は前年度から 2 兆 4,310 億円の大幅な減額とし、公債依存度は 35.6%とリーマンショック以前の水準まで回復しております。しかしながら、平成 28 年度末の公債残高の見込みは約 838 兆円、国民 1 人当たりでは約 664 万円と見込まれ、借金が増加している状況に変わりはないところです。

長野県にあっては、地方創生のフロントランナーとなるべく、信州創生を新展開する6つの柱に沿った施策と平成28年度に加速化させる重点施策への取り組み、また「人口定着・確かな暮らし実現総合戦略」、「しあわせ信州創造プラン」の着実な推進を図り、あわせて農業振興や地方創生に向けた取組などを切れ目なく推進するための2月補正予算案と一体的に予算編成を行い、前年度比約62億円、0.7%増の8,757億円の当初予算案が示されております。

平成28年度の市政運営の基本的な考えについて申し述べます。

地方創生総合戦略に掲げました施策の中からさらに特化して、「少子化・子育て対策」、「若い人たちが働いていくための産業振興」、「移住・定住施策」、「観光の推進」を柱として「若者が参加するまちづくり」に取り組んでまいりたいと考えております。

この地方創生の総括的なソフト事業として日本創生会議の増田寛也座長を招き、「全国スローライフフォーラム」を11月に開催してまいりたい。論議をより一層深めるためその全体会議の前に、6月頃より分科会を3回程開催し、若い人達に参画してもらい論議を深めたいと考えております。

四つの分野の一つ目の「少子化・子育て対策」については、若者がこの地に住んで生活ができ、子どもを安心して育てられる環境づくりのための「子

ども未来基金」の創設と基金を活用した少子化・子育て支援対策の推進であります。

全国の皆様から、ふるさと納税制度を活用して、飯山市の取り組みに対し賛同と応援をいただき、大変ありがたく、また心強く感じているところであります。この寄附金の中から1億円を原資として、未来を担う子どもを安心して育てることのできる環境づくりと少子化対策を図ることを目的とした「子ども未来基金」を平成27年度において創設し、従来の子育て支援策に加え今後数年の間、少子化・子育て対策を重点的に進めてまいります。

二つ目の「若い人たちが働いていくための産業振興」については、人口減少に歯止めをかけるためには若者がこの地に住み続けることが重要です。新たに起業に向けた活動を行うスペース（インキュベーションセンター）の整備を行うとともに人材育成による起業支援や土産品開発支援の推進を図り、信頼ある飯山ブランドの確立をめざし新産業の創出と既存産業の付加価値向上を図るための事業を展開してまいります。そのため、現在の産業振興施設整備基金を原資とし、より利用しやすい形での活用を図ってまいります。

三つ目の「移住・定住施策」については、市外からの移住に際して、市内での住宅新築や中古住宅の購入に要する経費への支援の内容を拡充するとともに、新たに新幹線を利用して通勤・通学する際の定期券購入への補助制度の創設や、雇用促進住宅を取得し若者向けへの住宅に改修を行うなど、移

住・定住施策を進めてまいります。

四つ目の「観光の推進」については、引き続き新幹線のメリット等を活かすべく、二次交通の利便性を一層図り、広域連携「信越自然郷」を推進するとともに、国内外に通用する観光地づくりに向けて、宿泊客の利用増を図るための宿泊施設の改修等の整備費用に対する補助を創設します。また、JR飯山線に、飯山線沿線地域活性化協議会の活動により、昭和47年以来44年ぶりに飯山市内を走るJR東日本によるSLが運行されることとなりました。市のPRや活性化などに大きな効果をもたらすものと期待するところであり、沿線市町村や関係機関と連携を図り、11月の運行に向けての取り組みを進めてまいります。

一方、こうした施策の推進には市民サービスに直結する財源等を生み出すため行財政改革の推進は不可欠であります。第5次行財政改革大綱の目標である「効率的で質の高い行政運営の推進」と「安定と活力ある財政運営の充実」による自立した自治体経営の実現に向け、行財政健全化プラン実施計画の取り組みを引き続き進めてまいります。

市民各位、議員各位のご理解ご協力をお願い申し上げます。

それでは、平成28年度の予算の特徴と施策概要を申し上げます。

予算総額は、一般会計で136億7千万円、前年度に比べ8億1千万

円、5.6%の減であります。

歳入では、市税が新幹線駅及び関連施設等の固定資産税が課税開始年度にあたることから前年度より1億円増の23億円、地方交付税を前年度より3億2千万円減の46億2千万円計上し、不足分を基金繰入金、市債で対応しました。

歳出につきましては、地域産業おこし・若者定住・子育て支援に関する事業について、新たな事業構築と制度設計や事業の拡充を重点的に行う事により、事業の加速化を図る予算配分となっています。

以下、平成28年度の重点施策に関わる事業について飯山市総合戦略の柱に沿いご説明申し上げ、市の姿をご理解いただければと思います。

一つ目は、地域経済活性化・雇用創出についてです。

新たな人の流れと仕事の創出による活気あふれるまちづくりを進め、新幹線開業効果による地域の元気創出を推進してまいります。

「新たな産業と雇用の創出・人材育成の推進」については、インキュベーションセンターを設置し人材育成による起業について支援を図ってまいります。農産物の販売推進についても、みゆきポークの母豚更新補助、加工商品開発・販売対策支援を行うとともに、マーケティングによる市内の美味しい農産物のPR・販売促進などを図るとともに、基幹産業の農業と障がい者の継続雇用のマッチングを行い、障が

い者の自立支援することを目的とした、就労継続支援を行う施設の開設に対する支援を行います。また、正受庵の観光客用トイレ整備のほか外国人観光客の増加を視野に、市街地等にW i - F i 環境の整備を進め多様なニーズに対応した情報発信を図ってまいります。

「地域産業力の強化」については、飯山市の美味しい米の更なる品質向上等を目的とした米乾燥調製施設の整備に対し国の交付金を活用した支援を行うとともに、商店の活性化等に向けて店舗リフォーム及び起業への支援、駅周辺地区での店舗建設に対する支援を図ってまいります。また新たに企業誘致推進員を東京に配置し企業誘致を更に推進してまいります。

「新幹線飯山駅を活用した観光交流人口の増加」については、サイクルロード整備やアクティビティイベント開催への支援、新幹線飯山駅のハブ機能の充実に向けて駅と観光拠点とを結ぶ二次交通の確保を行うとともに、信越自然郷エリア内のイベント・交通情報発信等の充実を図り、滞在型リゾートエリアの実現に向けた事業を推進してまいります。また、国内外に通用する観光地づくりを目指して、まちづくりデザイン計画及び修景計画に基づいたまち並等の修景整備や重要文化的景観の選定を受けた小菅集落周辺の保存・整備、菜の花まつりやスポーツ資源と観光事業を融合したスポーツツーリズムの推進、姉妹都市・観光交流都市との交流、文化交流館での様々な交流と賑わい活動などによる交流人口の拡大に向けた事業を展開するとともに、おも

てなし気運の醸成や受け入れ態勢の整備などの推進を図ってまいります。

二つ目は、若者定住・移住定住推進についてです。

若者の結婚・出産等の希望をかなえ、若者の暮らしを支援するとともにあらゆる世代の移住定住を支援し、飯山での魅力ある暮らしを提案・発信してまいります。

「若者定住のための条件、環境整備等」については、飯山市へ移住する際の住宅建設、中古住宅の購入に対する助成を拡充するとともに、移住された方が新幹線を利用した通勤や通学に対する補助を新たに加え、また、子どもができにくく治療を受ける夫婦の医療費への支援を増額し費用負担の軽減を図ります。

「移住希望者の視点に立った総合的な移住定住対策」については、移住希望者に対する飯山市の支援制度等のきめ細やかな相談や現地見学ツアーの実施や、全国林業後継者大会等を開催し、広く飯山市のPRを推進するとともに、親等と同居するための住宅を新築・増築又は改修への補助についても内容の見直し拡充を図るとともに、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構から雇用促進住宅飯山宿舎の譲渡を受け施設改修を行い、移住・定住に向けた条件等の整備を図ってまいります。

三つ目は、子育て支援・次世代育成についてです。

子育て環境を更に充実し、次世代を担う子どもたちの成長を応援し、「子育てするなら飯山市」の実現を目指してまいります。

「子育て支援の充実」については、今年度から市立保育園での入所年齢を満1歳からに引き下げ、延長保育時間の延長、土曜日の1日保育を市内4つの保育園で実施、日曜・祝日等の休日保育を市内2つの保育園で実施、保育料の階層区分の細分化など保護者の負担軽減を図るとともに、出産退院後3か月間の家事や育児に対する援助を実施したところです。これらの事業を含めて引き続き第三子以降の保育料無料化、中学生までの医療費の負担軽減、子育て支援センター、学童クラブ、出産から1歳頃までの子育てスタート期に自信を持って子育てできるように産後ヘルパー派遣や親・家族への支援を図ってまいります。また、子ども・子育て支援事業計画において、今後の課題として放課後児童対策や病後児保育の実施などが位置付けられていることから、老朽化が進んでいる城山児童館、上町児童センターを統合改築する他、子育て支援センター・病後児保育施設などの併設も視野に入れ、市民の意見を聞く中で子育て支援の中核施設となるような施設として、平成30年度の開設を目指してまいります。

「次世代育成・教育」については、飯山市教育大綱に掲げる「夢に向かい、自分の道を切り拓き、たくましく生きる力を育てる教育の実践」、「ふるさとを知り、ふるさとを愛する、地域に根ざした教育の実

践」、「国際感覚を養い、新しい時代に生きる力を育てる教育の実践」、
「個性や多様性を尊重し、共生社会をつくるための豊かな人間性を育てる教育の実践」、「地域・家庭・学校が連携して教育力を高め、地域に学ぶ生涯学習の実践」の5つの柱及び平成32年度までの目標の実現に向けた取り組み、また、学校・地域の連携などによる児童・生徒の学力の向上への施策をはじめ、中学校の生徒が使うタブレット端末等の整備を行いICT教育の推進や、小・中学校に英語指導助手を全体で4名配置するとともに、中国の深セン外国語学校へ中学生が訪問し、国際感覚の醸成に取り組んでまいります。あわせて、将来、小中学校の教員を目指す大学生への無利子の奨学金制度の原資とするための基金積立を行い制度の充実を図ってまいります。

四つ目は、いつまでも安心して暮らせる地域づくりについてです。

いつまでも元気に暮らせる安全安心な雪国の地域づくりを進めてまいります。

「安心・安全な暮らしの確保」やその他については、産婦人科・小児科医等の勤務医不足に対する医師招聘の推進を図り、また除雪対策に万全を期すとともに屋根雪の克雪化や災害救助員の派遣など冬の暮らしに対する支援や、万が一の災害に備えての備蓄物資を引き続き実施し、いつまでも安心して暮らせる地域づくりを進めてまいります。

ふるさと寄付金事業については、「悠久のふるさと飯山応援金」への

飯山市の美味しいお米をはじめとする様々な特典などにより現在全国から多くの申し出があり、平成 28 年度においては 10 億円の寄付金を見込んでいるところです。新年度においても引き続き事業の推進を図ってまいります。

以上、施策の概要について申し上げます。

最後になりますが、先に申し上げたとおり、昨年 3 月 14 日の新幹線飯山駅から 1 年が経過いたします。新幹線飯山駅開業という大きな機会を活かし、更なる市政発展に向けて全力で取り組んでまいり所存でありますので、市民各層の皆様の一層のご協力をお願いするとともに議員各位のご支援ご協力を心よりお願い申し上げ、所信表明と致します。

平 成 2 8 年 2 月

飯 山 市 長 足 立 正 則